

様式2 令和2年度 清瀬市立清瀬第五中学校 学校評価表

学校教育目標		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動	
・和敬 明るく思いやりのある人 ・思索 深く静かに考える人 ・剛健 たくましく、がまん強い人		育成を目指す資質能力 ・主として学びに向かう力、人間性等の涵養 ・主として思考力、判断力、表現力等の育成 ・主として心身の健康、豊かなスポーツライフの育成	
目指す学校像(ビジョン)		特色ある教育活動 体験的な学習活動を主軸として、創造性豊かで自他を尊重する精神を身に付けた人間性豊かな生徒を育成する。 そして明るく平和な文化国家の実現に尽くす、誠実で実行力のある人間を育成する。 ・人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を身に付けさせる。 ・各教科の基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けさせる。 ・健康で安全な生活を送るための基礎となる知識や技能を身に付けさせるとともに、体育科の授業を軸として体力向上を図る。また、家庭や地域社会と連携して体験的な学習活動を充実させる。	
【目指す学校像】	○生徒にとって、楽しく、行きがよい(生きがよい)のある学校 ○保護者にとって、親しみが有り、地域に誇りに思われる学校 ○教職員にとって、自己研鑽に励み、協力して進める学校		
【目指す児童・生徒像】	○和敬・・・明るく思いやりのある人 「チームで働く力」「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」の育成－ ○思索・・・深く静かに考える人 「考え抜く力」「課題発見・解決力」「計画力」「創造力」の育成－ ○剛健・・・たくましく、がまん強い人 「前に踏み出す力」「主体性」「働きかけ力」「実行力」「規律性」「ストレスコントロール力」の育成－		
【目指す教師像】	○常に生徒のことを第一に考える教師 ○日々研修に努め、チャレンジ精神をもって授業の改善、充実に取り組む教師 ○生徒のためという同一の視点に立って協力し、支え合う ○体罰や不適切な指導を許さぬ教師		

前年度までの学校経営上の成果と課題
 ○学校関係者評価での、『紙媒体』での情報伝達は伝わりにくい』の意見を受け、今までより一層学校ホームページと一斉メールの配信に努めたことで、保護者の学校への協力度や肯定的な意見が増した。継続して取り組むとともに、即時性と伝達内容の精査が課題である。
 ○専門家による体験的な学習は、清瀬市の子どもたちに育てたい四つの力のうち「生きて働く知識・技能」の醸成に向けた取り組みとして成果をあげている。引き続き継続して行うことでより成果が上がると考えるが、今年度はこの情勢下、講師の選定や実施方法についてが課題である。

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		評価	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
確かな学力の向上	配慮が必要な生徒への支援を行う。	4	3	学校ホームページを活用して、授業動画の配信や課題を発送してくれたことはよかった。特に課題について、後日回答が掲載され、子どもたちが意欲的に臨むことができたのはとてもよかった。	今年度教員は、生徒の学びを止めないための取組みに対し、試行錯誤した。生徒アンケートでは、「家庭での学習」について肯定的な回答が少なかったが、学校関係者評価では、課題の配信に生徒が興味を持ち家庭で取り組んでいる姿を教えていただいたので、来年度導入されるICT機器を上手に活用し、より興味を抱かせ、「わかりやすい」授業を構築していく。
	目標(学習めあて)の提示・導入の工夫・めあてと板書内容を使った振り返りを行う。	3	3		
豊かな心の育成	いつでも誰とでも相談週間やふれあい週間調査、学級環境適応感尺度(アセス)を実施し、生徒一人一人の実態を把握・分析して指導にいかす。	5	3	対大人との相談という視点だけでなく、子どもたち同士の横のつながりも減り、互いに悩みを打ち明ける機会もなくなったのではないかと感じる。	教員は、前年度までのような体験的な活動を思うように実施できなかったため、「成果指標」は低くなった。ただし、「学校関係者評価」では、その少ない取り組みでも評価は高かったため、活動に制限がある中でも、内容や形態に工夫を加えて、実際に体験や活動を行うことで学びを深めていく取組みを実施する。 その際には、生徒間で縦横のつながりを持ち、試行錯誤することができる内容や体験を取り入れる。 オリピック・パラリンピック教育では、体験を通じて心のバリアフリーを体感でき、生徒一人一人の人生の糧となる掛け替えのないレガシーが残った。 これらの取組みは、「豊かな心の育成」及び「健やかな体の育成」に向け、本校の特色ある教育として今後も引き続き行っていく。
	学級活動や総合的な学習、生徒会活動(あいさつ運動、募金活動、ボランティア活動など)を通し、公共心や社会性を育む。	4	2		
健やかな体の育成	各種分野の専門家による指導など生徒が体験的に学ぶ機会を設ける。	4	2	障害者理解教育は、生徒が興味を持った点について学習してから車イスバスケットボールやブラインドウォークを体験したことで課題や問題点も含め理解が深まっていたのでとてもよかった。	
	健康・安全に係る取組みを生徒会活動などを通して実施し、生徒の主体性を育てる。	2	3		
特別支援教育の充実	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業(教師の言葉かけや授業の進め方等)の実施や、教室環境の整備を推進する。	3	3	設問①の「先生方は、わかりやすい授業を行ってくれている」に肯定的な回答をしている生徒が全体で88%を超えているのは、取り組みの成果だと思える。	サポートルーム教員の努力もあり、2年目で特別支援教育に対する理解が、生徒・教員共に昨年度より一層高まった。 サポートルームでの取り組みを全学級でも生かすつつ、全校生徒に必要な支援をいきとどかせ、「わかりやすい授業」皆に配慮された過ごしやす環境」づくりを行っていく。
	サポートルーム教員との連携を密にとり、支援を必要とする生徒の情報を全教職員で共有し、組織的に対応する。	4	4		
本校の特色	学校ホームページと一斉メールを活用し、日々の教育活動を適時的に的確に掲載・発信する。	3	4	学校を訪れる機会のなかった今年度、ほぼ毎日更新されるホームページは、学校の様子がよくわかり良かった。 また、学校支援本部としても学習ボランティアによる活動を行ったかったが、制限があり実施できず残念であった。	
	保護者を含めた、地域人材の活用を積極的に行う。	4	4		